

ここに平和があるように

イザヤ書 66 : 10 - 16

ルカによる福音書 10 : 1 - 6



司祭 ヨハネ 井田 泉

聖霊降臨後第4主日

2025年7月6日

上野聖ヨハネ教会にて

今日朗読された3つの聖書のいずれも「平和」という言葉が出てきました。まず旧約聖書から。

「主はこう言われる。／見よ、わたしは彼女に向けよう／平和を大河のように」イザヤ書 66:12

次に使徒書です。

「大切なのは、新しく創造されることです。このような原理に従って生きていく人の上に、つまり、神のイスラエルの上に平和と憐れみがあるように。」ガラテヤの信徒への手紙 6:16
そして福音書です。

「どこかの家に入ったら、まず、『この家に平和があるように』と言いなさい。平和の子がそこにいるなら、あなたがたの願う平和はその人にとどまる。もし、いなければ、その平和はあなたがたに戻ってくる。」ルカによる福音書 10:5-6

まず今日の旧約聖書・イザヤ書第 66 章に注目しましょう。遠い昔、神の都と呼ばれ、人々の信仰と生活の拠り所であったエルサレムは、外国の軍隊によって破壊され、廃墟のようになってしまいました。人々は打ちひしがれ、不安と混乱と絶望の中にありました。けれどもそこに、神さまは新しい世界を造り出そうとされます。預言者はこう呼びかけます。「彼女」とはエルサレムのことです。

「エルサレムと共に喜び祝い／彼女のゆえに喜び躍れ／彼女を愛するすべての人よ。

彼女と共に喜び楽しめ／彼女のために喪に服していたすべての人よ。

彼女の慰めの乳房から飲んで、飽き足り／豊かな乳房に養われ、喜びを得よ。」 66:10-11

ここから主なる神ご自身が語り出されます。戦争と抑圧に打ちひしがれ、貧困に苦しみ、不安におびえてきた人々に神が語りかけられます。

「主はこう言われる。／見よ、わたしは彼女に向けよう／平和を大河のように。国々の栄えを洪水の流れのように。」

66:12

干からびた世界、争いと不安に疲弊した地に、わたしは平和を送る。滔々たる大河のように平和を満たす、と主が言われるのです。

「あなたたちは乳房に養われ／抱いて運ばれ、膝の上であやされる。」 66:12

お母さんに抱かれ、その乳房で養われる赤ちゃん。抱いて運ばれ、膝の上であやされる幼子。何という安心でしょう。柔らかな愛に包まれ、幸福で、満ち足りて、何の心配ありません。

それをしてくださるのはだれか。

「母がその子を慰めるように／わたしはあなたたちを慰める。／エルサレムであなたたちは慰めを受ける。」 66:13

実は、わたしたちを膝の上であやしてくださるお母さんとは、神さまのことだったのです。

神さまはただ父であるばかりではなく、わたしたちの母でもある。神さまはわたしたちをこのうえなく大切に思い、わたしたちを抱き、わたしたちをご自分の膝の上であやし、わたしたちを慰めてくださる。ここは聖書全体の中でも特別に大切なところです。

「これを見て、あなたたちの心は喜び楽しみ／あなたたちの骨は青草のように育つ。」 66:14

こうして疲れ果てたわたしたちの、枯れたかのような骨は潤されて、青草のように育ちます。このようにして神の膝のもとに慰められた者は、平和に包まれて、豊かに育っていくのです。

今、非道と困窮の中にあるガザの人々に対して、神さまがそのようにしてくださいますように！

ところでイエスのもとに集まった人々も、このような経験をしたに違いありません。イエスのまわりに集まった人たちの多くは、傷や病、負い目を負った人たちでした。

イエスはそのような人々を慰め、励ましつつ、育まれました。イエスのもとで人々は次第に自分自身を取り戻し、成長し、イエスの働きに加わる者となっていました。これまでただ福音を聴く人であったのが語る人となり、ただ受ける人であったのが自分からも人に提供する人になっていきます。祈られる人で

あったのが、みずから祈る人になっていきます。

そこで今日の福音書です。イエスは 72 人の人を選んで任命し、宣教に送り出されます。かつては 12 人だった（ルカ 9:1）のが 6 倍に増えています。

「その後、主はほかに七十二人を任命し、御自分が行くつもりのすべての町や村に二人ずつ先に遣わされた。」

ルカによる福音書 10:1

主イエスが任命し、何かを彼らに託されます。

少しとばして 5 節を見てみましょう。

「どこかの家に入ったら、まず、『この家に平和があるように』と言いなさい。平和の子がそこにいるなら、あなたがたの願う平和はその人にとどまる。もし、いなければ、その平和はあなたがたに戻ってくる。」 10:5-6

これが宣教です。主イエスが弟子たちに託されたのは「平和」です。

イエスが弟子たちに与え、託してくださったのですから、弟子たちは自分に託された平和を持ち運び、人に届け、また共有する、分かち合うのです。「この家に平和があるように」「ここに平和があるように」と、行く先々で祈ります。

今わたしたちはこの話を昔の弟子たちのこととして聞いたかもしれませんが、けれどもこれはわたしたちのことでもあるので

す。わたしたちもまた、イエスに招かれ、任命され、派遣される者なのです。

不安であったり恐れたりしているかもしれないわたしたち。しかしそのわたしたちに対して神さまは平和を大河のように向けてくださる。神さまの膝の上であやされ、慰めを受ける。イエスのもとでわたしたちは青草のように育つ。そしてイエスはわたしたちに「平和」を与え、平和をわたしたちに託される。

ですからわたしたちも、行く先々で、留まる先々で「ここに平和があるように」と祈りましょう。

たとえわたしたちの祈りが不十分であっても、無力に思えても、そこにイエスが一緒に働いていてくださいます。と同時に、先ほどの福音書にこう言われていたことを思い出しましょう。

「その後、主はほかに七十二人を任命し、御自分が行くつもののすべての町や村に二人ずつ先に遣わされた。」ルカ 10:1

わたしたちと一緒に歩んでくださるイエスは、もう一度わたしたちの後から来られて、わたしたちのやり残したこと、不十分だったこと、できなかったことを引き受けて、整え完成してくださいます。だからわたしたちは不十分であってよい。間違ってもよいのです。イエスが完成してくださるのですから。

祈ります。

神さま、さまざまな課題や困難を抱えて苦勞しているわたしたちを顧みて慰めてください。青草のように育んでください。そして主イエスの平和をわたしたちのうちに満たしてください。そしてわたしたちが行く先々で「ここに平和があるように」と祈るようにしてください。平和のないところに平和をもたらしてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン